



# 株式会社セック

**S**ystems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

## 2021年3月期 第2四半期決算 説明資料

2020年11月25日

# <目次>

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

# 事業分野（BF）

## リアルタイム技術が得意とする4つの分野

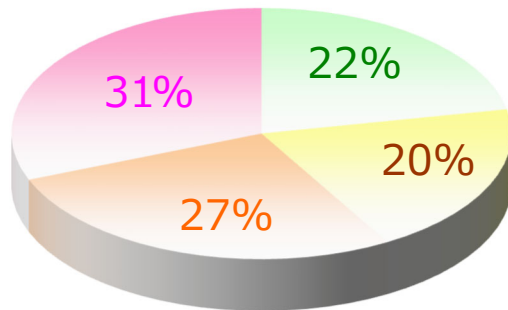
### 宇宙先端システムBF

宇宙天文分野と、ロボットやAIなど  
先端分野のソフトウェアを開発

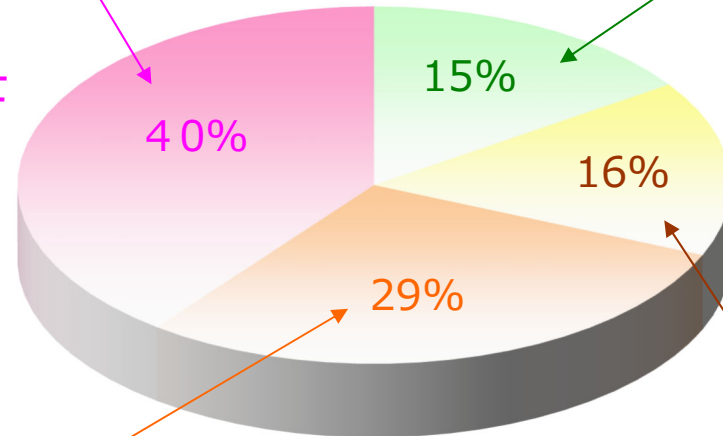
### モバイルネットワークBF

モバイルサービスを利用するためのアプリケーション  
や、モバイル機器の組み込みソフトウェアを開発

需要構造の変化に応じて  
柔軟に対応



2020年3月期第2四半期



2021年3月期第2四半期

### 社会基盤システムBF

医療、防衛、交通、官公庁向けなど  
社会公共性の高い分野のシステムを開発

### インターネットBF

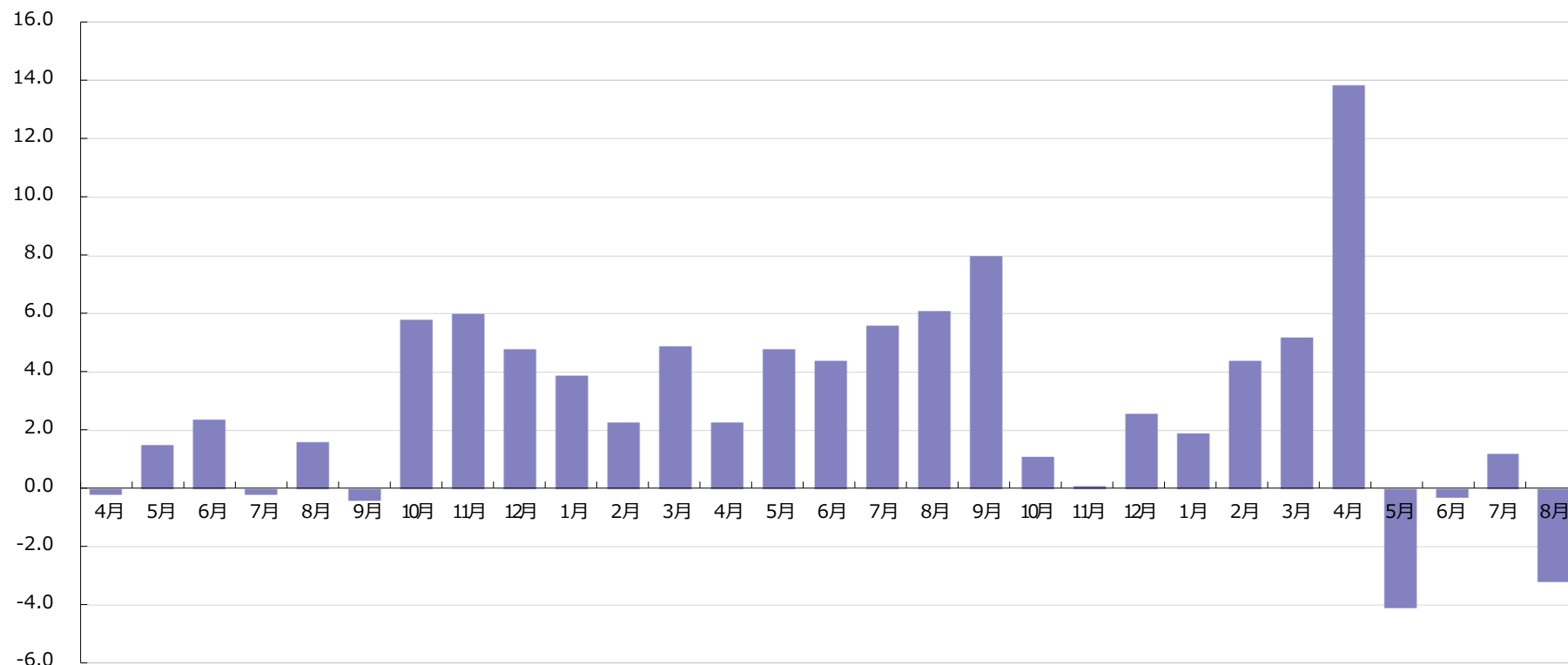
非接触IC搭載のソフトウェアや  
民間企業向けのシステムを開発

# 2021年3月期第2四半期 決算概要

## 2021年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2020年4月以降は増加と減少を繰り返しているが、受注ソフトウェアの分類に着目すると5月より減少しており、新型コロナウイルス感染症による影響が継続していると推察される。

# 2021年3月期第2四半期総括

## 売上高は過去最高、利益面は上場来2位、前年同期比で増収減益

売上高	: <u>2,956</u> 百万円	前期比	2.3%増		
営業利益	: <u>379</u> 百万円	前期比	4.4%減	利益率	12.8%
経常利益	: <u>402</u> 百万円	前期比	6.9%減	利益率	13.6%
当期純利益	: <u>287</u> 百万円	前期比	4.9%減		

## 受注高は過去2位、受注残高は過去最高

受注高	: <u>3,213</u> 百万円	前期比	5.2%減		
受注残高	: <u>2,601</u> 百万円	前期比	2.5%増		

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 宇宙先端システムBFの売上高比率が大幅に増加し、モバイルネットワークBF、インターネットBFが大幅に減少するなど需要構造の変化は継続している。
- 第2四半期会計期間は業績が回復したが、第1四半期会計期間の減益を埋め合わせるまでにはいかず、累計では増収減益に留まった。
- 継続商談は堅調であったが、新型コロナウイルス感染症の影響による新規商談の計画延期や中止などが発生し、受注高が前年同期比で減少した。

# 第2四半期損益計算書

	2020年3月期第2四半期 (百万円)	2021年3月期第2四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,890	2,956	102.3	2,850	103.7
売上原価	2,053	2,149	104.7	2,080	103.3
売上総利益	836	807	96.5	770	104.8
販売管理費	439	427	97.3	470	90.9
営業利益 (営業利益率)	397 (13.7%)	379 (12.8%)	95.6	300 (10.5%)	126.6
経常利益 (経常利益率)	432 (15.0%)	402 (13.6%)	93.1	320 (11.2%)	125.9
当期純利益	302	287	95.1	220	130.8

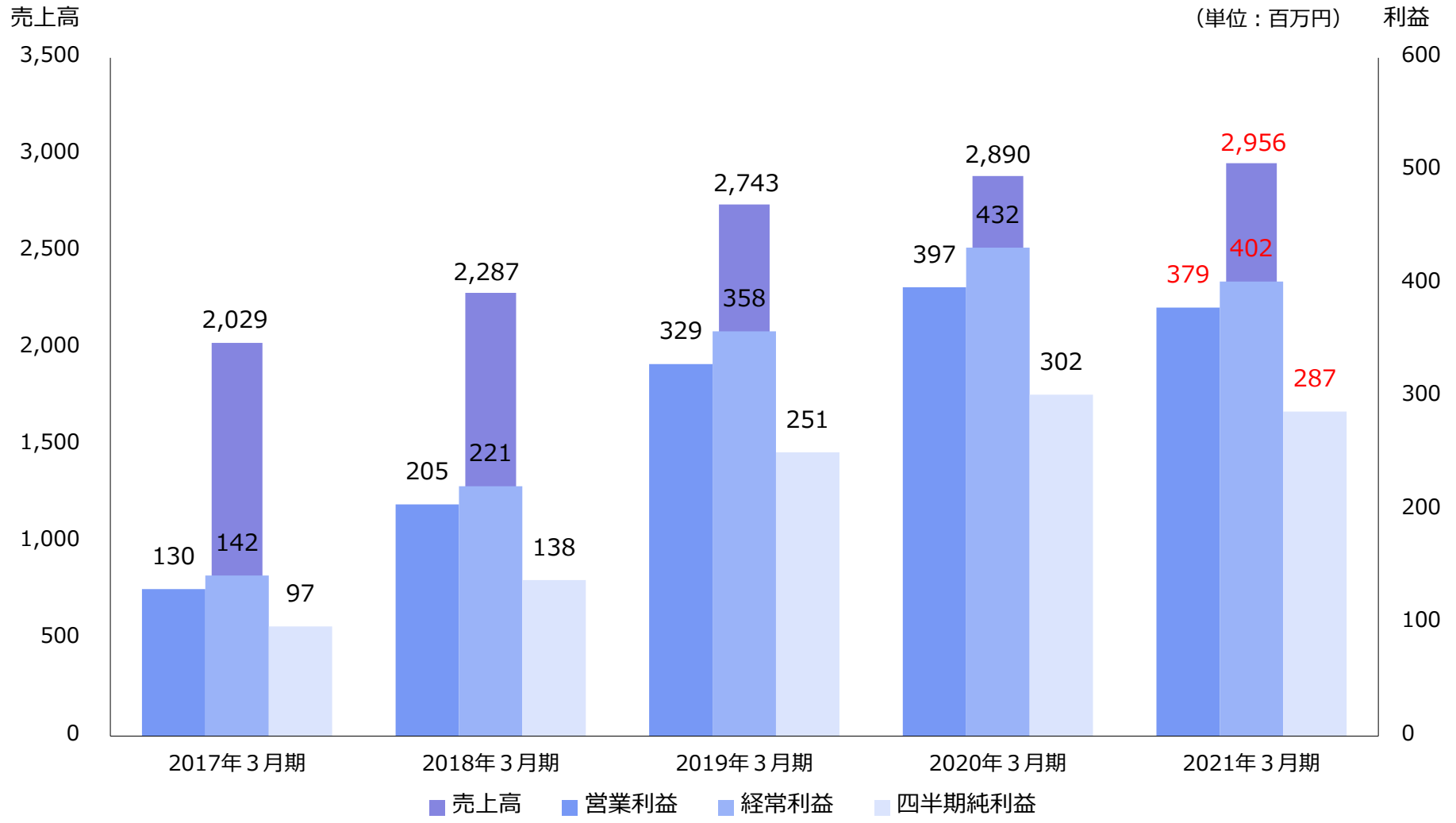
売上原価 社員数の増加と昇給により人件費が増加、売上高増加に伴い外注費も増加  
(外注費 9.1億円、前年同期比2.7%増、売上高外注比率31.1%、前期31.0%)

販売管理費 採用活動強化により採用費が大幅に増加、一方、研究開発費が大幅に減少  
(研究開発費は23百万円で、前年同期比で42.4%減少)

営業外損益 前年同期と比較し、研究開発の補助金収入が減少 (前年同期は11百万円)

# 第2四半期決算業績推移（過去5年）

売上高は過去最高、営業利益、経常利益は上場来2位

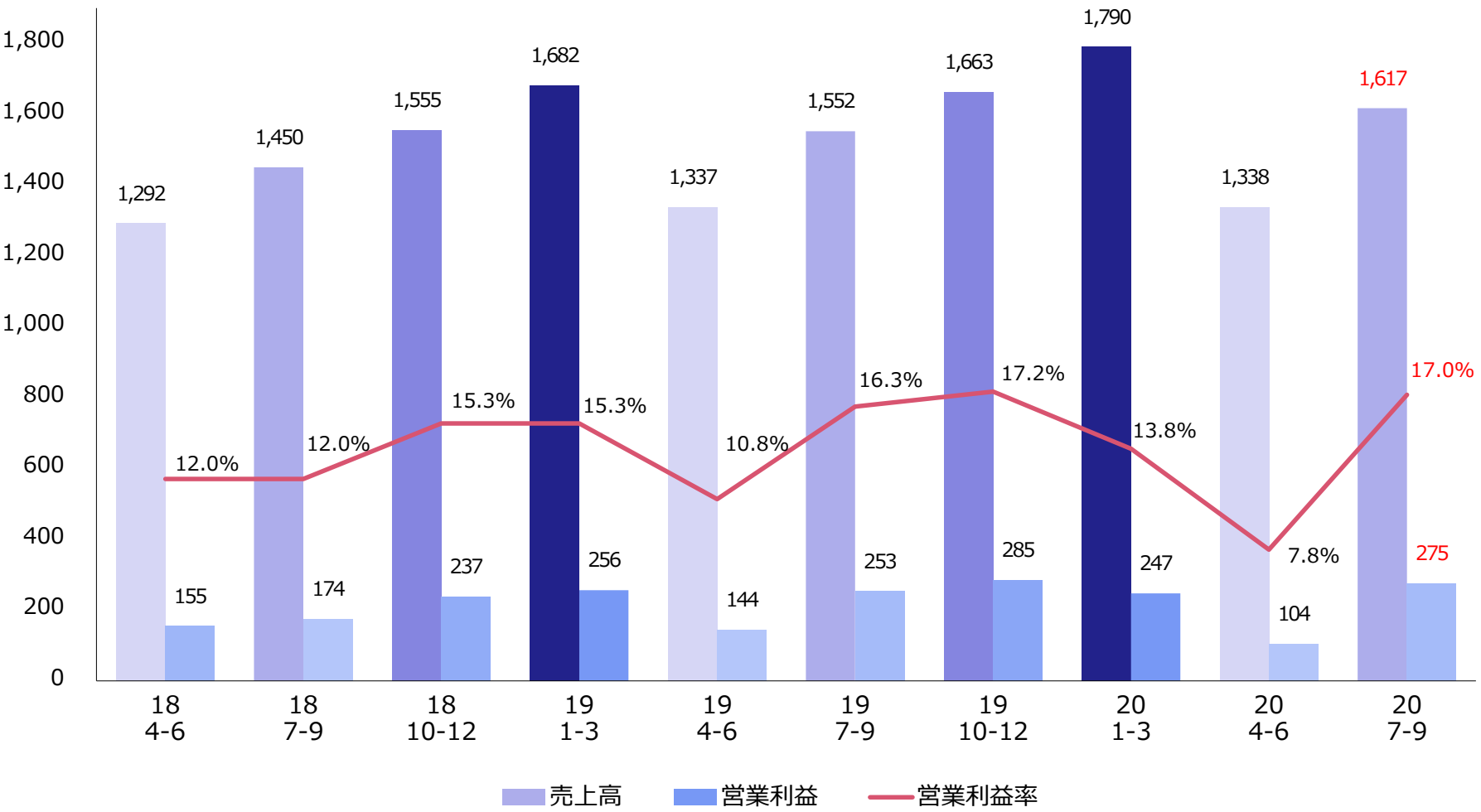




# 四半期業績推移 (P L)

## 2 四半期連続の増収減益のあと増収増益へ

(単位：百万円)

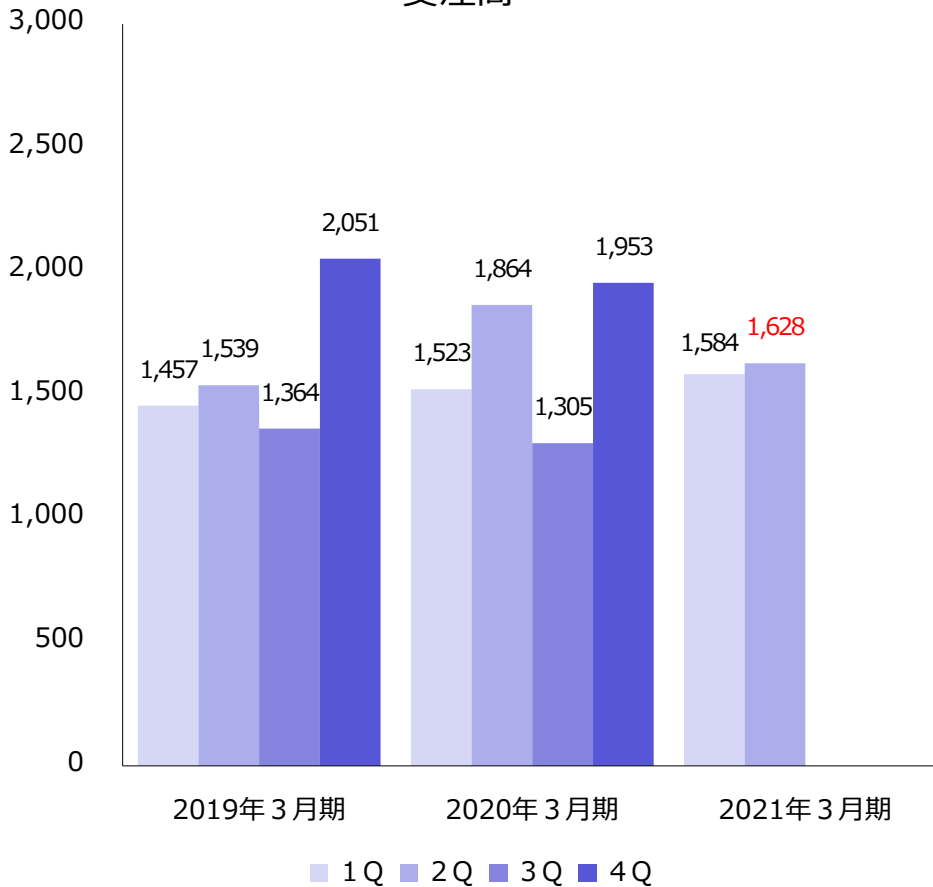


# 四半期業績推移（受注状況）

受注高は過去 2 位、受注残高は過去最高

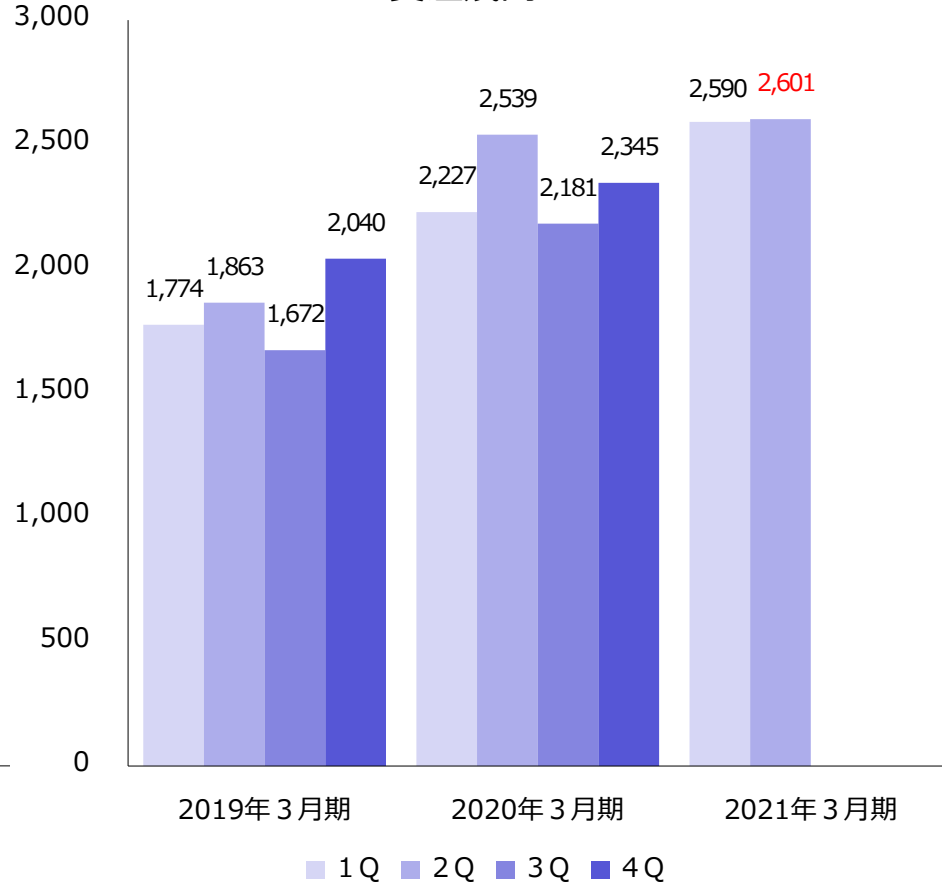
(単位：百万円)

受注高



(単位：百万円)

受注残高



# 第2四半期BF別の状況

## 宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期第2四半期		2021年3月期第2四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	632	21.9	459	15.5	72.6
インターネット	569	19.7	470	15.9	82.6
社会基盤システム	791	27.4	857	29.0	108.3
宇宙先端システム	896	31.0	1,169	39.6	130.4
合計	2,890	100.0	2,956	100.0	102.3

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発の減少が下げ止まりつつあるものの、モバイル決済関連の開発案件が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少
- 社会基盤システムBFは、交通分野のモバイル決済関連の開発が減少したが、官公庁案件や医療分野の開発が増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発が堅調

# 第2四半期末のB F別受注状況

## 社会基盤システムが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期第2四半期		2021年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	643	335	466	72.6	306	91.5
インターネット	635	339	484	76.2	307	90.5
社会基盤システム	881	1,179	1,041	118.2	1,345	114.0
宇宙先端システム	1,228	684	1,220	99.4	642	93.8
合計	3,388	2,539	3,213	94.8	2,601	102.5

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,091百万円、前期(1,984百万円)と比較し5.4%の増加)

- モバイルネットワークBFは、モバイル決済関連の開発が減少し、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少し、受注高は大幅に減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や医療分野が増加し、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボット案件が好調、宇宙天文分野の開発が堅調で、受注高は前期並み

# 第2四半期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2020年3月末日	2020年9月末日	増減
流動資産	5,843	5,445	▲398
固定資産	1,670	1,734	64
流動負債	1,167	912	▲254
固定負債	96	138	42
純資産	6,251	6,129	▲121
総資産	7,514	7,180	▲333
自己資本比率	83.2%	85.4%	2.2%
流動比率	500.7%	596.7%	96.1%
固定比率	26.7%	28.3%	1.6%

流動資産 受取手形及び売掛金、現金及び預金の減少などによる減少

固定資産 投資有価証券の増加などによる増加

流動負債 未払法人税等、役員賞与引当金、賞与引当金の減少などによる減少

純資産 自己株式の取得、配当金支払いなどによる減少

# 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	749	338	▲411
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲9	▲38	▲28
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲244	▲422	▲178
現金及び同等物の増減額	494	▲122	▲617
現金及び同等物期末残高	3,193	3,247	53

営業キャッシュ・フロー

税引前四半期純利益の減少、売上債権の減少による収入減

投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の売却及び償還があったが、取得もあり支出増

財務キャッシュ・フロー

配当金支払、自己株式取得による支出増

# 2021年3月期 通期業績見通し

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

### 「研究開発」「海外技術」「人材」の3つのキーワード

#### 「研究開発」

- 新型コロナ後を見据え、キーワードは、デジタル化 = AI、リモート化 = IoT、省人化 = ロボットとし、引続き、研究開発に注力する。
- 1社完結の研究開発以外に、大学や国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。

#### 「海外技術」

- ロボット標準化技術の海外展開と米国のハードウェアを含めた最新技術の導入など、海外とのビジネスに挑戦する。
- 米国現地法人AMSECと協調し、グローバルビジネスを加速する。

#### 「人材」

- 新型コロナ対策でのリモートワークを評価し、知的労働者の成長を促す働き方改革（ワークライフバランス）にトライする。
- AIを中心に技術教育をさらに強化。ディープラーニングに関する知識習得と経験を積み重ねる。



# 2021年3月期業績見通し

## 業績見通しを上方修正

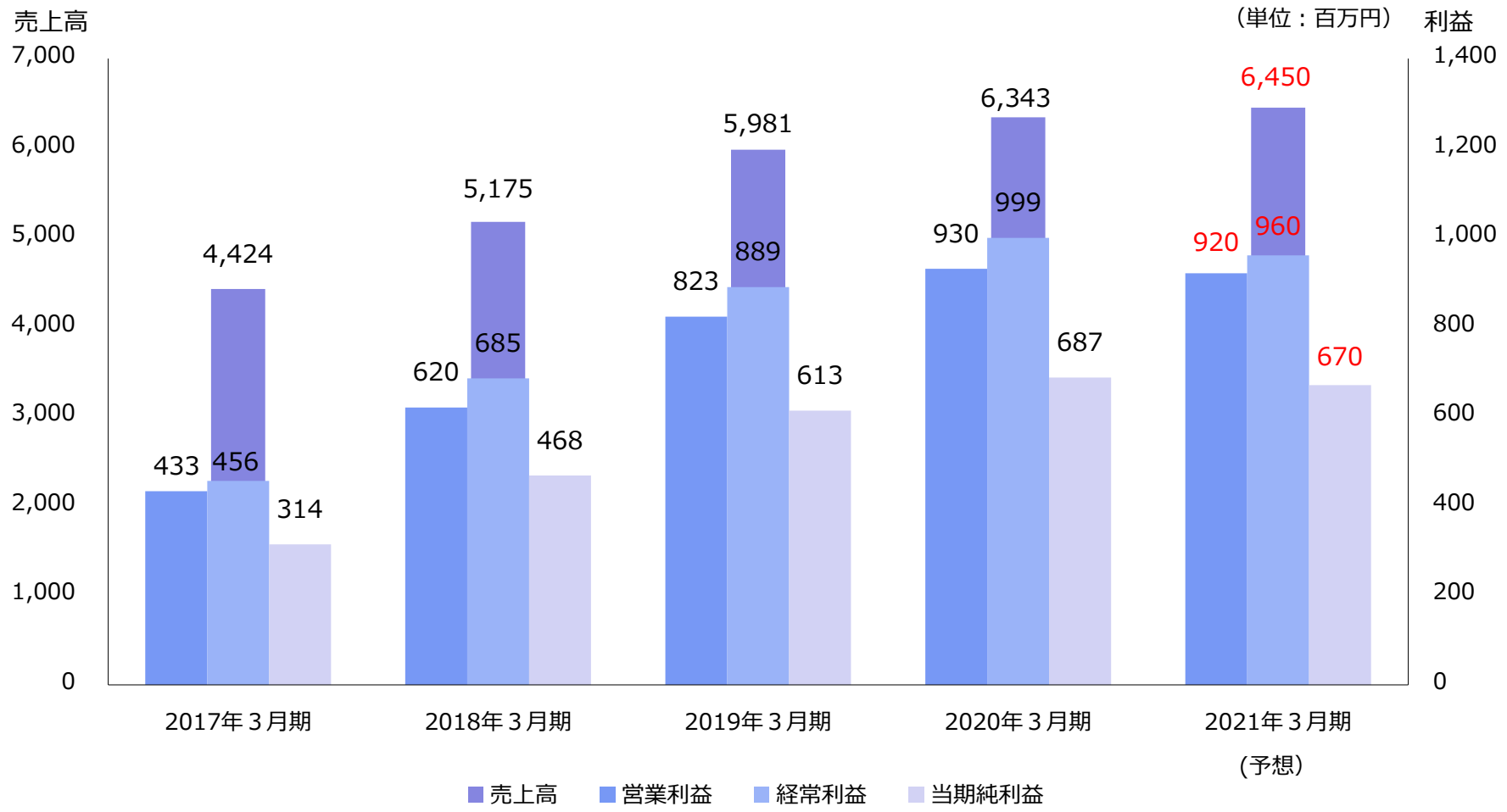
(単位:百万円)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,343	6,450	101.7
売上原価	4,568	4,670	102.2
売上総利益	1,775	1,780	100.3
販売管理費	844	860	101.8
営業利益 (営業利益率)	930 (14.7%)	920 (14.3%)	98.9
経常利益 (経常利益率)	999 (15.8%)	960 (14.9%)	96.0
当期純利益	687	670	97.4

上期は、売上高及び利益が計画を上回った。下期は、新型コロナウイルス感染症の影響や、当社を取り巻く需要環境は不透明ではあるものの、売上高及び利益は前期並みに推移すると予想し、10月26日に通期業績予想を修正した。

# 通期業績の推移

売上高は過去最高、利益は前期並みを目指す



# 2021年3月期B F別業績見通し

## 宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少し、全体では減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が下げ止まったが、モバイル決済関連が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
インターネット	民間企業向けのWEBシステムの開発が、設備投資抑制により若干の減少を見込む	➡	民間企業向けのWEBシステムの開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	➡	官公庁系や医療分野の開発が堅調で、予想を若干上回る展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調で、宇宙天文分野の開発も増加傾向にあり、全体で増加	↗	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調で、宇宙天文分野の開発も増加し、ほぼ予想どおりの展開	↗

# 注力分野の状況

(IoT・AI・ロボット)

# 注力分野の状況 > IoT・AI・ロボット

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」 → 基盤技術はリアルタイム技術

## ユビキタス

身の回りの全てのものにコンピュータを埋め込んでネットワークに接続することで、私たちの生活を安全で安心、快適なものにするという概念

↑  
[基盤技術]  
リアルタイム技術

### ユビキタスを具現化した技術

#### IoT

- **ロボットIoT向けコンピュータビジョン研究**
- MR技術を用いた次世代可視化技術 (JAXA)

### ユビキタスのキーテクノロジー

#### AI (人工知能)

- **機械学習を用いた運用データの解析による宇宙機の故障解析 (JAXA)**
- **ロボット用人工知能・機械学習プラットフォーム開発 (早稲田大学)**

### ロボットソフトウェア共通化技術

(2003年より研究開発をスタート)

- NEDO次世代ロボット共通基盤開発プロジェクト (2005年~2007年)
- NEDO次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト (2007年~2011年)
- NEDO基盤ロボット技術活用型オープンイノベーション促進プロジェクト (2008年~2010年)
- NEDOロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト (2018年~2020年)

### ユビキタスの究極の端末

#### ロボット

- RTM・ROS標準化技術・米国技術調査
- ロボット自律移動研究
- 知能処理の回路化(FPGA)とロボットプラットフォームへの適用 (九州工業大学)
- **国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟宇宙ロボット制御プラットフォーム**

## MR (IoT) – リモート化

### リモート化の実用に向けて、5Gの特徴を活用したMRの研究開発を推進

- 5G（超高速、超低遅延、多数同時接続）が、今後、IoTの基盤となる  
⇒5Gの特徴を活かしたエッジデバイスとしてのMRに注目
  - MR技術を用いた次世代可視化技術（JAXAと共同研究）
  - MRのビジネス化に向け、「Microsoft Mixed Realityパートナープログラム」のパートナー認定を取得
- 研究開発の商談が中心で実用化の開発はこれから。商談は着実に増加している。

## エッジコンピューティング (AI・ロボット) – デジタル化、省人化

### デジタル化、省人化に向けて、FPGAを推進

- すべてのデータをクラウドの処理と連携するエッジ（端末）での処理が必要となる（エッジコンピューティング）  
⇒エッジでAIなど高度な処理をするために、FPGA（プログラミング可能な半導体）が有力視されている  
⇒FPGAはGPUと比較して、高負荷処理の高速化、省電力化を実現。プログラミング可能なデバイスであるため、ソフトウェアエンジニアとの親和性が高い
  - 知能処理の回路化とロボットプラットフォームへの適用（九州工業大学と共同研究）
- ロボット、自動車の分野での研究開発案件が進行中。実用化に向けて模索が続く。

# ロボットビジネスの状況

**実績 (2021年3月期第2四半期 売上高約778百万円)**  
← 前年同期約608百万円 ← 前々年同期約514百万円)

**車両自動走行は大幅増、サービスロボットの研究開発案件も増加し、全体で前期比28%増**

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアなどの研究案件が大幅に増加  
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信などのメーカーからの研究開発案件が堅調  
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、  
自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流  
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボットなど広範囲  
⇒ 顧客層は、拡大傾向だが、中小型の研究開発案件が中心

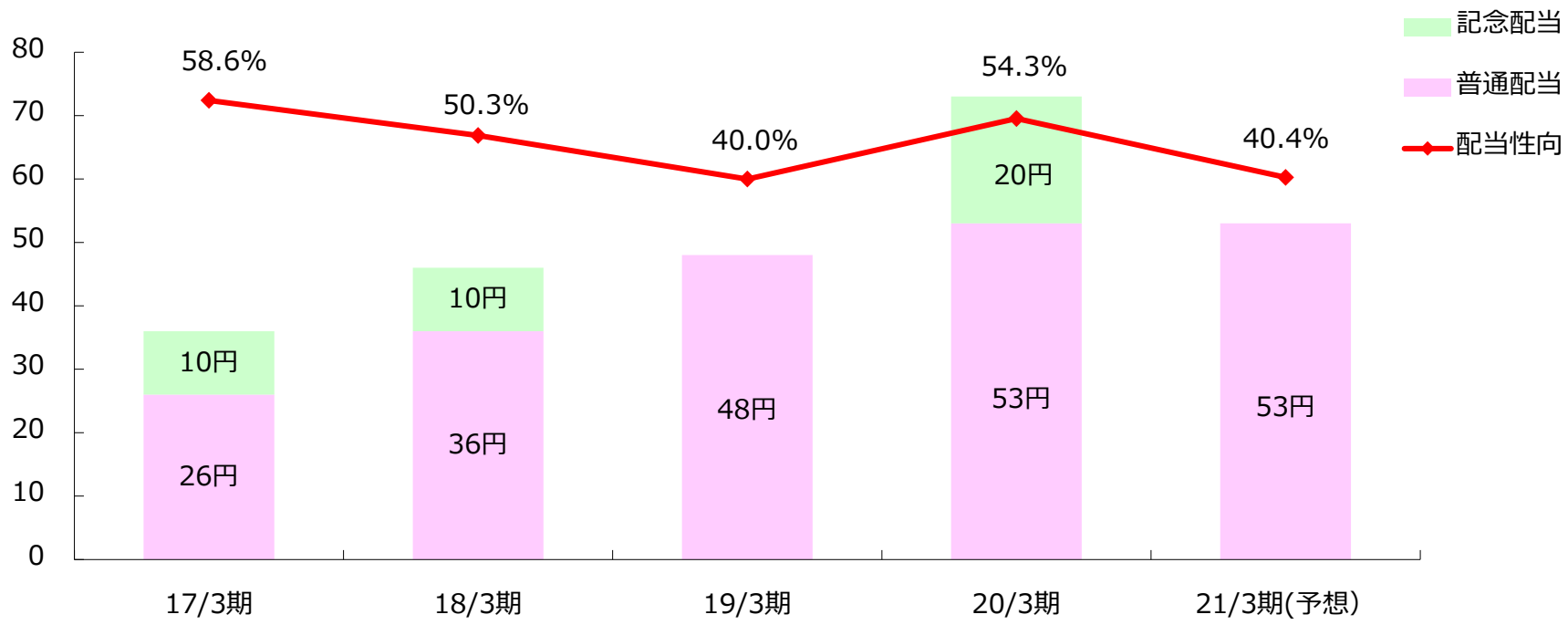
**今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない**

## 3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進  
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進  
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など  
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進  
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

# 配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2021年3月期は前期と同額の1株当たり53円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。